

平成 24 年度 すぎなみ大人塾（夜）コース

はじめてのソーシャル・アクション～つながりづくりの実践力を身につける～

平成 24 年 6 月 6 日（水） 19:00～21:00

会場：セッション杉並 於：視聴覚室

すぎなみ大人塾 第 1 回講座オリエンテーション 「つながりを考える」

学習支援者：広石拓司 （株）エンパブリック代表取締役

学習支援補助者：手塚佳代子

NPO 法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー代表

事務局より

杉並大人塾今年で 8 年目になります。杉並大人塾は 2005 年のころは、名前が恥ずかしいから変えてくれという声もありましたが、現在は「大人塾何年生」と会話ができるほど認知度が高まりました。栃木県や豊島区でも似たような講座ができています。一般的な学校やカルチャーセンターでは、先生がいて、生徒がいるというかたちですが、大人塾はお互いの人生から学びあうというかたちです。それぞれが、持ち味をいかしながらすすめていくプログラムです。ですから、ここでは講師はいません。学習支援者、補助者ということでサポートいたします。困ったときは是非いつてください。

昨年震災の後、「まかせて文句をいう社会から、ひきうけて考える社会にしていましよう」と言った方がいらっしゃいました。そんなことが実践そのためには、みなさんがグループの中でできそうなことを積極的に関わってください。どういう風に生きていくのか、目標を見失いがちな社会で、多様な参加者の中でなにか生まれるのではないかと思います。

ぜひ、この場を楽しんでいただけたらと願っています。いまは夏ですから明るくて通いやすいですが、冬は暗くて寒いですし、ご家庭や仕事の事情でお休みすることもゆったりとした気持ちで1年間おつきあいしていただけたらと思います。社会教育センターで、「大人熟してる新聞」をつくっています。教育委員会のホームページ講演の記録などをみていただけたら、休んだ時も便利です。それぞれ社会人として忙しい中で1年間参加していただければと思います。1年間、よろしく願いいたします。

学習支援者・広石

あとで自己紹介をしますが、1年間18回コースという長いように見えますが、アツという間です。授業だけではなく、宿題というかたちもあると思います。みなさんが、知りたいことを知る場にしたいです。こういうことを学びたいというリクエストがあったら、ぜひ聞かせてください。

学習支援者・手塚

広石さんのサポートをしたり、杉並の選考事例や情報をお伝えしたいとおもいます。「できることはやってみる」をモットーとしたNPOをやっています。私も杉並区で育っています。杉並の公設民営のサイトを運営していますので、いろんな情報を知る機会に恵まれています。地域情報に関するお手伝いをしております。

夜コースについて

学習支援者・広石

私自身はこの10年ほど、社会的な事業のお手伝いをしています。地域の中にはいろんな方がいます。学生は学生で何かをしたいと思っています。会社員の方、商店街や自営業の方、シニアの方、主婦の方など、それぞれに活動していますが、なかなか横にはひろがっていきません。いくら良い企画でも実行するとき周りの人との協力は不可欠ですが、協力の作り方を学ぶ機会がないと思います。だから、そのような学ぶ機会を作っています。

お金儲けでなく、社会的なテーマでまちづくりや福祉のために起業しようという人達もいて、成長してほしいなと思うのですが なかなか日本の社会ではNPOや地域活動は大きくなれないな、とずっと悩んでいました。そして海外のことなど勉強していくうちに、日本にはホームパーティやバーベキューの機会が少ない、と気付きました。

例えば、ホームパーティがあれば、こどもは、お父さんの友人で金融関係の人、お母さんの友達で地域の環境活動をしている人など色々な大人に出会い交流する機会があり、社会と触れ合うことができます。

昔の日本は、地域の八百屋さんの話を聞いたり交流があったのですが、現在では、こどもはこどもだけの世界で育ち、社会で異世代の人の中に入っても、どうして接していいか分からなくなっています。

シニアはシニアで、若者が何を考えているか分からない という状況です。

どうしてホームパーティをやっている人少ないのか考えてみると、主催するとなると、まず部屋をきれいに片づけ、料理を作って、持成さなきゃいけない、と思うと面倒臭ですし、自分が全てしなければいけないと思うと大変と思う訳です。でも、来る人は話したくて繋がりたくてきているし、手伝いたい、分かち合いたい、とも思っているのですが、家主が一生懸命やっているとお手伝おうかと言い出しにくく、お互い疲れてしまうということが多いのではと思います。自分の力だけでなく、周りの人のやりたい気持ちを守り立てることが必要なのです。

大人塾の目標というのは、まず行動です。

自分で何ができるかわからないのが普通ですから、行動しながら見つけていくのです。ひたすら自己分析してもわからないですし、現場でやってみて仲間と話しているうちに気付くものです。知りたいことを知る、といっても何が知りたいかもわからないかもしれませんが、ここでは正解を教えるわけではなく、考える・行動するきっかけやヒント、仲間作りをするコツを身体で身につけてほしいです。何でこんなことをするのかと思うかもしれないけど、まず色々なことにチャレンジしてみたいです。

この1年を、シーズン1～4として、

- 1、現場は地域だ 身近なものの可能性を探す。
 - 2、仲間プロデュース お互い仲間の可能性をひきだす。
 - 3、自分たちでワークショップをひらく
 - 4、次のアクションにつなげる
- という流れで考えてみました。

まず、地域の見方を変えてほしい 実際歩いてみたり、参加者や地域のひとたちと触れ合うことでの発見、ワークショップを告知からすべて自分たちでやってみて、やってみて出来ない部分、足りない部分、意見の合わない部分を是非出してほしい、そして一緒に考えていきたいと思います。

すぎなみ大人塾から地域活動へと続いていっているグループもありますので、みなさんにとってもそんな1年にしてほしいと思います。

いろんなアクションを起こし、トライアンドエラーができる場所、間違えてもよい場所として活用してほしいと思います。

こういう形で1年間やっていきましょう。



学習支援者・手塚

大人塾の基本的運営についてお話しさせていただきます。

お話もして、ほかの方のお話もきけるよう時間で切りながら進めていきます。

みなさんが公平にお話でき気持ちよく進めたいのでよろしくお願いします。

また、情報提供も受付けています。チラシ等は事務局が配布前にチェックしますので早めにいらしてください。過去のことにとらわれず、名刺のないお付き合いが地域活動では大事なので、ぜひ前向きなお付き合いを広げて行ってほしいとおもいます。それでは、テーブルごとに自己紹介をしていきましょう。

学習支援者・広石

いかがでしょうか。これから一緒に学ぶ仲間を知り、自分のことをちゃんと伝えられましたか？このような自己紹介の時に、短い時間でも印象づけられるコミュニケーションの大切さが、わかるとおもいます。また、記録の大切さも感じるでしょう。話しながら、記録するのは大変ですよ。何も書かないと忘れてしまいます。思い出するためのメモという形式でとられたらよいと思います。

初回ということで、心得的なことが多くなってしまいましたが、これからのヒントにしてほしいと思います。記録集も、今見てもピンとこなくても何か始めていくとヒントになるはず。はじめてのソーシャルアクションというコースなので、ソーシャルアクションについて少しお話しします。最初にお話ししたように、どうしたらよいか考えている頃、2001年ごろ社会起業家という言葉を知り、インタビュー番組を見たのが転機になりました。ブロンリー・バイ・ボウのモーソンは、イギリスで最初に住民指導で作られたヘルスセンターということで非常に有名で、貧しく阻害された地域で、市民の人たちが再生した事例としてよく挙げられます。ヘルスセンターというと健康センターみたいですが、心身の健康ということで、スキルを身につけたり自立を助けたりもする団体です。ブレアが首相の時、彼は資本主義でも社会主義でもない第三の道＝ビジネスと行政の間の道ということをして盛んに言っていました。この話はその例としてよく話されていました。ロンドンのイーストエンドは、大変な貧困地域でロンドンオリンピックの国内向けのPRには、この地域を豊かにすることが言われていました。

84年アンドリュー・モーソンさんがこの地域に牧師として派遣されるのですが、町の人に話を聞くと、この町は住みたくて住んでいる人はいない、住んでいる人は引っ越したくても越せないくらい貧しいのだ、と言うのだそうです。ミサを開いても人が来ない。それは、パブの掃除などの仕事で、土曜の夜から日曜の朝まで働いていて疲れ切っていて来られないということでした。

93年、あるシングルマザーで二人の子供がいるジーンさんという女性が、貯金も保障もないため、癌でも仕事を休めず働き続け、周囲の人々が心配しているうちに亡くなってしまふという事があり、新聞記者がコラムに書き、それが名文で評判になり、行政が会議を開くという事態がありました。そこで判明したのが、全員が彼女のために何らかの業務をしていた、ということでした。しかし、彼女には何のサービスも提供されていなかったのです。その様子を見ていたモーソンさんは、最後まで見届けるひとがいないことに問題を感じます。それぞれが専門職で、それぞれの業務はきちんとしても次に回すと、うまくいくだろうと思って、また別の案件の処理にかかっていたのです。

モーソンさんは、このような悲しいことは2度と起こしたくないと思い、地域の人の家を一軒一軒周り その人が出来ること・困っていることを聞いて回りました。

シングルマザーで夜のパブの仕事をしている人は、こどものことで遅刻が多くなり、貧しいのに罰金も取られる。昼間は子供の世話で夜は働いて、手一杯で、地域のためにできることなんて思いつかないと言っていたのですが、よくよく聞いてみると、こどもを預かってくれる人がいたら、少ない給料の中からいくらか支払うことはできる、と話しました。また、別の人には母の介護のために仕事を辞め、二年間収入がなくてお金がなく、不安を抱えている。母が人を怒鳴りつけるため、国のヘルパーも依頼できない、その人も出来ることはないか考えたところ、夕方早く母は寝るので、手は空くが時々呼ばれるので外には行けない、でもその時間帯に家で手伝えることで何か収入になることがあればやりたい、と話しました。それで、モーソンさんはその2人をつなげ、シングルマザーの母親が仕事に行く前、夕方こどもを預け、介護の人が家で面倒を見て、お駄賃をもらうという助け合いが生まれました。このような風に、モーソンさんは125のプログラムを作って、地域の人全員がつながる活動をプロデュースしたそうです。母親は、遅刻がなくなり信頼がつき給料も上がり、介護の人にもわずかでも収入ができ、地域のお肉屋さんでも買い物できるようになり、地域の経済も循環するようになりました。やがて、行政も助け合いをして

いる地域なので資金を出してよいだらうということで、市民運営のヘルスセンターが出来たということです。

まちづくり、地域興しというと、自分がゼロから作るイメージがありますが、地域にはいっぱい人、行政の制度や施設、予算といった資源があります。それをいかに結びつけるかが重要なと思うのです。

国内の例ですと、四日市の郊外の住宅のある路線バスが廃止になりました。バスが通っていない町はよくないと思ったある人が、行政に訴えるのですが、撤退したバス会社からは、タダにしてもバスは乗らない地域と言われていたそうです。それでもその人は、その地域にバスが必要かどうかのアンケートを配布しました。やはり、バスには乗らないという意見が多数でしたが、よく見ると車や自転車を使っている人はいらないと答えていて、一人暮らしのお年寄りにはバスがあれば乗りたいけど不便なので、タクシーで病院への通院や買い物をしていることが分かりました。古く開発された地域にお年寄が大勢住んでいるのですが、バスは新しく開発された人口の多い地域を通過していたのです。そこで、お年寄りの地域と病院やお店をつなぐ路線のバスを走らせると、お年寄りが使うようになり、バスの中でおしゃべりも始まってコミュニティの場にもなったということです。

少数でも強いニーズのある方に着目することが、これからは大事なのではないかと思います。自分だけの力で勝負しようとするは大変ですが、地域にある資源を丁寧に掘り起こすと、眠っている需要が見つかると思います。世の中にあることをつなぐ、そのつなぎ方がオンリーワンになると思いますし、関係性を見出すことがソーシャルアクションなのではないかと思います。地域や人を丁寧にみていき、杉並の地域を巻き込むようなアクションができるとよいと思います。個人でリスクを負うのは大変ですが、仲間と一緒にだとわくわく楽しいと思いますので、是非行動してほしいと思います。1年間、よろしくお願いします。

学習支援者・手塚

杉並区にも、自転車で町づくりをしているNPOがあつたりしますので、ソーシャルアクションを身近に感じて頂けたらとおもいます。